

平成26年度事業報告

1 事業活動の概要

当会は、昭和41年に社団法人として設立されましたが、この度の公益法人改革に伴い、平成25年4月1日に「一般社団法人 科学技術と経済の会」に移行しました。

創立以来、我が国が科学技術に立脚した先進的で豊かな国、そして国際的にも貢献できる存在感のある国となることに資するべく、経営研究、人材育成、普及啓発、国際交流、受託・助成調査研究など、広く技術と経営の課題について切磋琢磨してまいりましたが、一般社団法人への移行をさらなる飛躍のステップとすべく、平成26年度も、良質な活動の適時・適切な実施、自立した事業の強化による経営体力強化、会員の維持・増強による活動基盤の安定化等を図るとともに、真に会員の皆様と世の中のお役にたてる産官学の効果的なネットワーク化を図った活動の推進に積極的に取り組みました。

さて、リーマンショックと、その後、引続いた5重苦、6重苦の中で日本経済・世界経済は厳しい試練に曝されてきましたが、安倍内閣の積極的な経済政策、日銀の金融緩和、比較的安定した円安、GPIFなど年金関係機関の投資ポートフォリオの見直し、2020年東京オリンピックへの期待等により企業の業績も向上し、ベースアップ実施やボーナス増額など世の中への利益還元が促進されるとともに、株式市場が活性化するなど世の中の明るさも増しつつある状況となってきました。

しかしながら、その一方で、これらの状況を確固たるものとするためには革新的な成長戦略の実行、消費増税・増税のマイナス効果の克服、物価上昇率2%の目標達成によるデフレ脱却、財政の健全化等、経済好循環の実現が不可欠な状況となってきました。また国際的にも、米国の金融緩和縮小プロセスの内容や財政の崖問題、期限が迫るTPP交渉の行方、混迷を深めるウクライナやギリシャ情勢、不安定な原油価格など、世界経済や日本経済に大きな影響を及ぼす課題がどう着地するか目が離せない状況となってきました。

平成24年の秋には、京都大学の山中伸弥教授がiPS細胞作成の業績によりノーベル賞を受賞されましたが、その成果は再生医療や創薬の分野で目覚ましい研究の進展をもたらしました。続いて平成26年2月には高性能リチウムイオン電池開発に対し西美緒氏らが全米工学アカデミー賞を、また平成26年の秋には、青色LEDの発明実用化に対し赤崎勇氏らがノーベル賞を受賞されるなど日本発の優れたイノベーションが続きました。

研究者の先見性とたゆまぬ努力、産官学の密接な連携と相互の支援、関係者の叡知の結集等により、世界に通用する優れた成果を生み出しうるといふこれらの教訓をしっかりと生かしていく必要があります。

このような観点からイノベーションに対するモチベーションの向上を図り、もって日本経済の競争力向上や社会変革に寄与するため、文部科学省と日本経済新聞社の後援のもとに平成 24 年度に「技術経営・イノベーション賞」を創設し、第 1 回の表彰を実施しましたが、その後、経済産業省と日刊工業新聞社の後援を頂き、さらに（一財）新技術振興渡辺記念会の協賛を得て、平成 26 年度には、より充実した第三回の表彰を実施することが出来ました。

また、従来から当会の広範な研究活動を通じて得られた成果をもとに、提言・行動型の活動に積極的に取り組んできましたが、平成 26 年度には、システムティックで充実した提言を目指して平成 25 年度に設置した政策委員会と科学技術イノベーション専門委員会とが連携し、予算編成の時期をターゲットに関係者に政策提言を行いました。

さらに、我が国が今日のような厳しい状況に置かれている時、海外との交流を深め関係諸国から謙虚に学ぶ必要もあるため、近い将来、間違いなく世界経済の中心軸の一つとなるであろうアジア諸国に焦点を当てた「アジアビジネス研究会」を平成 25 年度にスタートさせましたが、参加者の関心も高いことから平成 26 年度に「第Ⅱ期アジアビジネス研究会」を好評のうちに実施しました。

いまだ不透明な内外の情勢、このような混沌とした、そして先見性と高度な判断、的確・迅速な行動を求められる時こそ、技術開発、経営研究、人材育成などのポテンシャルを高めていくことが極めて重要であるとの観点に立ち、平成 26 年度も積極的な活動を展開しました。

（1）経営研究事業

当会の事業活動の中核である経営研究事業につきましては、平成 26 年度も、従来どおり、参加者相互の積極的な自主活動を基本に事業を展開しました。

「技術経営会議」では、ここ数年「イノベーションの推進」、とりわけ「日本型イノベーションの確立と推進」を目指し、積極的に取り組んできました。平成 26 年度は主として 3 つの観点から取り組みました。第 1 は、各種活動の活発化・活性化を図ることですが、本会議、定例会、各種委員会の参加者数は若手や女性も含め大幅に増加しました。第 2 は、提言・行動型の活動強化で、「科学技術イノベーション専門委員会の活動成果」をもとに、「政策委員会」での議論も加え当会独自の政策提言を行いました。第 3 は、イノベーションに対するモチベーションの向上を図り、日本経済の競争力向上や社会変革の実現に資するべく創設し、平成 26 年度に第 3 回目を迎えた「技術経営・イノベーション賞」で、会員企業以外からの応募が会員企業からの応募を上回るとともに、応募の内容も幅広くなり、イノベーションに関して日本を代表する表彰にむけて一歩前進しました。

「明日の経営を考える会」では、平成 26 年度も「マネジメント研究会」、「ワーキングライフ研究会」など、若手の人材育成活動の一層の充実を図りました。前者は、「2030 年・勝ち残りをかけた企業の経営戦略」をテーマとして研究しました。また後者は、平成 24 年度に女性が元気に活躍する事が「明日の経営」の要の一つであるとの観点から「明日の働き方を考える会—女性の視点から」としてスタートさせたものを、平成 25 年度に「ワーキングライフ研究会」に衣替えし、

テーマも“働く時間をデザインする”として活動しましたが、平成26年度は、“企業で働く価値をデザインする”をテーマとし活動をより具体化、深化させました。この二つの研究会は平成27年5月29日の例会でその成果を報告、提言しました。また、代表者・幹事会では経営トップの交流の充実を図るとともに、例会や見学会でも活発な交流を図りました。

「技術競争戦略研究会」については、“変化に柔軟に対応して発展するオンリーワン経営に学ぶ実践的経営学”をテーマに、平成26年4月に第X期の研究会を開講し、平成26年3月に閉講しました。オンリーワン企業の経営哲学、経営戦略に対する参加者の関心が高く、研究意欲も旺盛なことから、引き続き平成27年4月より第XI期の研究会をスタート致しました。

「アジアビジネス研究会」については、平成25年度に第I期研究会をスタートさせましたが、平成26年度は引続き第II期研究会を開催しました。第II期研究会では、対象国として、ASEAN加盟国、ODA対象国、名目GDPが高いこと、日本からの投資先評価が高いこと等を考慮し、インドネシア、インド、タイ、ベトナム、マレーシアを選定しました。インドはASEAN加盟国ではありませんが、投資先評価としてインドネシアに続いて高く、名目GDPも高いことから対象国としました。また特別プログラムとして、マレーシア・インドネシアを訪問して現状を実体験しました。特にマレーシアでは、スーパーコリドを重点的に見学しました。第I期ならびに第II期の研究会で多くの成果を得られたことから、さらにアジアのビジネス環境をより深く掌握するため、平成27年度に第III期「アジアビジネス研究会」をスタートさせるべく、その準備を進めました。

(2) 人材育成事業

平成26年度も、それぞれの経営研究事業等を通じて人材育成の強化に努めましたが、人材育成に焦点を絞った受託型、オーダーメイド型の「ICT研究会」については、参加者数、研究内容等も年々充実し、トップマネジメントとのディスカッションや現場研修等の充実強化を図り、主体性のある自立型の闊達な人材の育成に努めました。さらに研究内容の密度の維持・向上と参加企業の拡大などのバランスを模索しつつ、6年目となる第6期研究会を開講すべく準備を進めました。

(3) 普及啓発事業

平成26年度も、当会と会員の皆様や世の中を結ぶ双方向の重要なコミュニケーションとして、積極的にその充実強化に努めました。

「技術経営・イノベーションシンポジウム」については、従来の「技術・経営シンポジウム」から衣替えした第一回目のシンポジウムとして、平成26年6月に“第2回科学技術・イノベーション賞”の受賞者による記念講演会を実施しました。

月刊機関誌「技術と経済」については、JATES掲載論文に加え、MOT学会投稿論文、(独)科学技術振興機構(JST)投稿論文など、内容の充実を図り、平成26年度末で第577号を発行するに至りました。

「ホームページ」については、平成25年4月1日の一般社団法人への移行に合わせて一新しました。いうまでもなく当会から会員ならびに世の中に向けたスピーディで充実した情報発信力の強化が図れる重要なツールであり、平成26年度もタイムリー、ビジュアル、シンプルなホームページの構築に努めました。

「技術経営・イノベーション賞」については、平成 26 年度には表彰対象の選定、件数、範囲など、さらなる充実を図るとともに、新たに（一財）新技術振興渡辺記念会の協賛を得て、平成 27 年 2 月に第 3 回の表彰を実施しました。（文部科学大臣賞 1 件、経済産業大臣賞 1 件、当会会長賞 4 件）

「支部活動」については、平成 26 年度も名古屋支部において、談話会・講演会・企業見学会など、月 1 回のペースで積極的な充実した活動が展開されました。

（4）国際活動事業

平成 26 年度は、韓国産業技術振興協会（K O I T A）が主催する“K O I T A グローバルフォーラム 2 0 1 4”に、日立製作所技監の鈴木 學氏を講師として派遣するなど交流を深めるとともに、11 月 17 日～21 日には、K O I T A 傘下の韓国企業訪日団と J A T E S 会員企業との技術経営に関するラウンドテーブルを開催しました。また、アジアビジネス研究会では、マレーシア・インドネシアに訪問団を派遣し、アジア諸国の産業政策に関わる工業団地訪問や、進出企業、海外 J I C A 事務所、を訪問し、海外進出状況の理解を促進しました。

（5）受託・助成事業

受託・助成事業については、（一財）新技術振興渡辺記念会からの調査研究を中心に参画させて頂きました。

なお、一般社団法人技術同友会から受託している同会の事務局業務については、同会の積極的な活動展開に伴い、例会、幹事会、委員会、シンポジウム、技術経営士関連業務などに参画しました。

（6）会の運営状況等

“永年会員表彰関係”については、特別会員 1 社、個人会員 14 名に対し、第 48 回総会において表彰を行いました。

“公益法人改革”関連については、平成 26 年 6 月 16 日に、平成 25 年度決算に基づく第 1 回の「公益目的支出計画実施報告書」を内閣府に提出し、同年 9 月 10 日に受理・完了しました。

会員数については、個人会員の高齢化や、日本経済が立て続けに未経験の厳しい試練に遭遇する中で、当会の活動の重要な基盤である会員の積極的な維持・増強に努めましたが、個人会員、特別会員とも退会が入会を上回り、それぞれ、469 名、91 社となりました。

平成 26 年度も、ここ数年にわたる厳しい状況が続く中、このような状況に対処すべく、事業拡大や受託業務の受注増、会員の維持・増強などによる収入増に努めつつ、同時に、思い切った事業運営の効率化に努めた結果、事業収支の均衡を図る事が出来ました。平成 26 年度、関係各位のご支援、ご協力により、当初の事業計画を達成する事が出来ましたことを厚くお礼を申し上げます。

2 経営研究事業

2-1 技術経営会議

技術経営会議の創設 40 周年にあたる平成 26 年度は、重点方針である“交流・発信・育成”を柱にさらなる改革・発展に向けて取り組みました。この結果、各種会合への参加者は、二年前のおよそ 2 倍になり、特に女性参加者も増加し、議論や交流がさらに活性化しました。主な内容として以下の通り実施しました。

◇本会議		
開催日	内 容	開催場所
第 81 回本会議 2014 年 9 月 23 日 ～9 月 24 日 (技術経営会議創立 40 周年記念)	<p>審議事項：活動報告、決算報告、次期役員選任</p> <p>特別講演 1：科学技術とイノベーションをめぐる政策動向 講師：文部科学省 文部科学審議官 土屋 定之 氏</p> <p>特別講演 2：科学技術イノベーションと経営 講師：三菱電機(株) 相談役 JATES 会長 野間口 有 氏</p> <p>特別セッション ラウンドテーブル激論会 テーブル 1 テーマ：新成長戦略とイノベーション 司会：技術経営会議議長 山下 徹 氏 参加者：参加者全員（テーブル 2 の参加者除く） 特別講演講師：土屋定之氏、野間口有氏、三品和弘氏 テーブル 2 テーマ：未来産業に求められる人的資本 司会：前技術経営会議副議長 齊藤 正憲 氏 参加者：若手キーパソン、若手部課長等 アドバイザー：宗定 勇 氏(キーパーソン研究会講師) 丹羽 清 氏 (技術経営・イノベーション賞アドバイザー)</p> <p>科学技術イノベーション専門委員会 最終報告 委員長：前技術経営会議副議長 齊藤 正憲 氏 特別講演 3：経営戦略を問いなおす 講師：神戸大学大学院 経営学研究科 教授 三品 和弘 氏 記念講演：日本という国の将来について考える 講師：丹羽 宇一郎 氏前伊藤忠商事(株)取締役会長、前中華人民 共和国特命全権大使 招待講演：日本の成長に向けて企業への期待 講師：野田 聖子 氏 衆議院議員、前自由民主党総務会長</p>	軽井沢プリンスホテル
第 82 回本会議 2015 年 2 月 17 日	<p>特別講演：サイバニクスを駆使した新産業創出と未来開拓への挑戦 講師：山海 嘉之 氏 筑波大学大学院教授、サイバニクス研究センター長 CYBERDYNE 株式会社 代表取締役社長 CEO</p>	ホテルグラ ンドパレス
◇定例会		
第 85 回 2014 年 6 月 10 日	<p>第 1 回技術経営・イノベーションシンポジウム 基調講演：イノベーションをめぐる政策の動向 講師：文部科学省科学技術・学術政策局長 川上伸昭 氏 講演 1：半導体デバイス分野のイノベーション 講師：住友電工デバイス・イノベーション(株) 電子デバイス事業部長 長谷川 裕一 氏 講演 2：土木分野のイノベーション 講師：(株)大林組土木本部プロジェクト外部主席技師 三木 慶造 氏 講演 3：ワールドチェーン物流分野のイノベーション 講師：(株)MARS Company 常務取締役 兼 事業開発部長 井筒 伊朗 氏 特別講演：『真つ当な経営と不確実なイノベーションの推進』 講師：一橋大学イノベーション研究センター教授、Ph.D. 青島 矢一 氏</p>	ホテルグラ ンドパレス
第 86 回 2014 年 11 月 11 日	<p>特別講演 I：環境変化に対応する経営 講師：旭化成(株) 常勤相談役 蛭田 史郎 氏 講演：エネルギー情勢と東京ガスの技術開発 講師：東京ガス(株)取締役常務施行役員小林 裕明 氏 特別講演 II：わが国の税・財政の現状と課題 講師：財務省 主計局 調査課長 寺岡 光博 氏</p>	日比谷図書 文化館

◇代表者懇談会		
第17期第4回 2014年4月25日	講演：『アベノミクスにおける規制改革と健康医療戦略の狙い』 講師：大阪大学大学院 教授 森下 竜一 氏	ホテルグラン ドパレス
第17期第5回 2014年5月13日	講演：「アベノミクスにおける科学技術イノベーション」 講師：内閣府総合科学技術会議議員 久間 和生 氏	ホテルグラン ドパレス
第18期第1回 2014年12月2日	講演：地方創生に向けた政府の取組みについて 講師：経済産業省 政策局 地域経済産業グループ 地域経済産業政策課長 星野 岳穂 氏	JATES 会議室
第18期第2回 2015年1月20日	講演：女性に選択肢を与える社会システム 講師：総合科学技術・イノベーション会議議員 原山 優子 氏	
◇専門委員会 政策委員会 委員長：(株)NTTデータ 取締役相談役 山下 徹 氏		
第9回 2014年4月17日	・平成26年度の進め方、産業競争力強化実行計画(2014.1.24)についての課題等	JATES 会議室
第10回 2014年8月7日	講演：イノベーションとIT政策～政府全体の情報通信技術(IT)政策の動向 講師：内閣官房情報通信技術総合戦略室 内閣参事官 市川 類 氏	
第11回 2014年10月21日	議題：科学技術イノベーションを通じた成長を目指す政策提言(案)について	JATES 会議室
第12回 2015年1月22日	講演：強くしなやか美しい国日本のまち・ひと・しごと・ものがたり 講師：福井 照 氏 衆議院議員	
◇合同委員会 (JATES エネルギー調査委員会)		
第1回 2014年7月10日	講演：次世代エネルギー・社会システム実証事業 ～進捗状況と成果等～ 講師：経済産業省資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部/新産業・社会システム推進室長 戸邊 千広 氏	JATES 会議室
第2回 2014年8月8日	講演：海外におけるスマートコミュニティ事業の状況と将来へ向けた課題 講師：(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 スマートコミュニティ部統括研究員 諸住 哲 氏	ホテルグラ ンドパレス
第3回 2014年9月11日	講演：IPP事業の歴史と展望 講師：(株)神戸製鋼所 顧問 中園 政明 氏	JATES 会議室
第4回 2014年10月29日	講演：ダイヤモンドレスポンス・システムの内外動向 講師：関西電力(株) お客さま本部担当部長西村 陽氏	JATES 会議室
第5回 2014年11月4日	講演：最近の一次エネルギーの動向 ～シェールガス(オイル)革命を中心に～ 講師：石井 彰 氏 エネルギー・アナリスト 前(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構上席客員研究員	JATES 会議室
◇社会インフラとレジリエンス専門委員会 委員長：(株)大林組取締役専務執行役員技術本部長 三輪 昭尚 氏		
第2回 2014年4月10日	講演：国土強靱化の政府の取組みについて 講師：内閣官房国土強靱化推進室 参事官 北本 政行 氏	JATES 会議室
第3回 2014年5月29日	講演：国土交通省の大規模自然災害対策について 講師：国土交通省 水管理・国土保全局 防災課長 塚原 浩一 氏	JATES 会議室
第4回 2014年10月6日	講演：これからの防災のあり方 講師：山地環境防災研究所長 (自然災害研究) 北澤 秋司 氏	JATES 会議室
第5回 2014年10月16日	講演：藻谷浩介が考えるレジリエンス 講師：(株)日本総合研究所 主席研究員 藻谷 浩介 氏	ホテルグラ ンドパレス
第6回 2015年1月22日	講演：強くしなやか美しい国日本のまち・ひと・しごと・ものがたり 講師：衆議院議員 福井 照 氏	JATES 会議室

第7回 2015年2月26日	講演：ソーシャル・キャピタルによる強靱な社会の構築 講師：慶應義塾大学 理工学部システムデザイン工学科教授 西 宏章 氏 講師：東邦大学医学部 社会医学講座衛星学分野助教 今村 晴彦 氏	JATES 会議室
◇ ビックデータと技術経営懇談会 委員長：元橋 一之 氏		
第3回 2014年5月22日	議題：交通系のビッグデータについて 講演：ICTを活用した鉄道設備メンテナンスの革新 講師：JR 東日本研究開発センター テクニカルセンター所長 横山 淳 氏	JATES 会議室
第4回 2014年6月20日	講演：なぜデータや分析力を活用できないか？15年間の苦勞から学んだ知恵』 講師：大阪ガス(株) 情報通信部 ビジネスアナリシスセンター長 河本 薫 氏 講演：ビジネス・アナリティクスの最新動向 講師：(株)NTT データ数理システム 取締役 中川 慶一郎 氏	JATES 会議室
第5回 2014年7月15日	植物工場見学 千葉大学 柏の葉キャンパス 講演：ビッグデータを活用して植物工場の統合環境制御システムを開発する 講師：千葉大学大学院 園芸学研究科 教授、 NPO 植物工場研究会 副理事長 丸尾 達 氏	千葉大学
第6回 2014年9月16日	議題：ビッグデータの活用について 講演：クラウド時代のメンテナンスサービス 講師：(株)IHI 高度情報マネジメント統括本部 企画開発部部長 中山 隆幸 氏 講演：ビッグデータの活用に関するワークショップの提案 講師：ビッグデータと技術経営懇談会 委員長 元橋 一之 氏	JATES 会議室
第7回 2014年12月4日	議題：ビッグデータの活用について 講演：NTTドコモにおける災害時のビッグデータ活用事例について 講師：(株)NTT ドコモ 情報システム部 NW 情報システム担当 石田 達也 氏	JATES 会議室
第8回 2015年1月30日	課題：ビッグデータの活用について 講演：ビッグデータを活用した安全で快適なモビリティ社会を目指したホンダテレマティクスの取り組み 講師：本田技研工業(株)グローバルテレマティクス部役員待遇参事 今井 武氏	JATES 会議室

2-2 明日の経営を考える会

「特徴化経営の推進」を指向する異業種企業が集まり、新しい企業環境に適応する経営研究を進めるとともに、会員相互の交流を強化するため以下のとおり事業活動を推進しました。

[平成26年度活動方針]

1. 体制の充実と参加者の維持・増強によりメンバー満足度の向上を図る
2. 企業経営に役立つ情報の発信流通基地とする

◇例会		
開催日	内 容	開催場所
第139回 2014年5月27日	22013年度「ワーキングライフ研究会」「マネジメント研究会」成果報告 特別講演：産官学金連携プロジェクト 深海探査機『江戸っ子1号』 講師：東京東信用金庫 お客様サポート部コーディネーター 桂川 正巳 氏	ホテルグラ ンドパレス
第140回 2014年7月24日	特別講演：『逆境を切り開く経営』—古い殻を破る意識改革— 講師：(株)佐藤満国際経営・農業研究所 代表取締役社長 佐藤 満 氏	
第141回 2014年10月23日	特別講演：南鳥島レアアース泥開発による日本復活のシナリオ 講師：東京大学大学院エネルギー・資源フロンティアセンター 教授 加藤泰浩 氏	

第 142 回 2014 年 11 月 20 日	2014 年度マネジメント研究会中間報告 2014 年度ワーキングライフ研究会中間報告	
第 143 回 2015 年 1 月 22 日	特別講演：見えない化が進むサイバー攻撃の背景と現状 講師：(株)サイバーディフェンス研究所理事 上席分析官 名和 利男氏	
第 144 回 2015 年 3 月 19 日	特別講演：川・用水・街道から見た江戸・東京 講師：川・街道から見たまち研究所 代表 笹倉 信行 氏	
◇代表者・幹事会		
第 131 回 2014 年 5 月 14 日	テーマ：住友電工のエネルギーシステムへの取り組み スピーチ：住友電気工業(株) 執行役員 インフラ事業推進部長 徳丸鶴亀 氏	JATES 会議室
第 132 回 2014 年 9 月 4 日	テーマ：昭和電線の建物免震への取り組み スピーチ：昭和電線デバイステクノロジー(株) 免制振音ユニット 技術課長 福田 滋夫 氏	
第 133 回 2015 年 2 月 19 日	テーマ：エクシオグループの電気・環境ビジネスへの取り組みについて スピーチ：執行役員電気・環境事業本部電気本部長 山下 博 氏	
◇マネジメント研究会		
	コーチ：(株)サイバー創研 取締役相談役 山縣 淳 氏 テーマ：2030 年における勝ち残りをかけた企業の経営戦略を考える 2014 年度参加会員企業：10 社 16 名	JATES 会議室
◇ワーキングライフ研究会		
	テーマ：企業で働く価値をデザインする 2014 年度参加会員企業：6 社 9 名	JATES 会議室
◇見学会		
	第 95 回 (2014 年 4 月 17 日) (独)海洋研究開発機構 横須賀本部 第 96 回 (2014 年 7 月 9 日) (株)大林組 技術研究所 第 97 回 (2014 年 9 月 29 日) 防衛省 海上自衛隊 横須賀地方総監部 第 98 回 (2014 年 12 月 10 日) NHK 放送技術研究所 第 99 回 (2015 年 3 月 4 日) (公財)鉄道総合技術研究所	

2-3 ライフサイクル・メンテナンス研究会

(1) 活動の概要

社会や産業を取り巻く環境は、地球温暖化などの環境問題やエネルギーの高騰、少子高齢化など、大きく変化してきている状況の中、高度成長期に建設された道路・橋梁・トンネルなどの社会資本構造物の高経年化に対する対策がいよいよ喫緊の課題になっています。今期の研究会は、社会資本を中心にライフサイクルを考慮した幅広い視野でのメンテナンスの研究を推進し、現場見学会ならびに講演会を実施しました。

平成 26 年度は下記のとおり実施しました。

- ・テーマ：持続可能な社会実現に向けた最適なメンテナンスのあり方
- ・研究会参加企業数：10 社
- ・委員長：早稲田大学 教授 高田祥三氏

開催日	内容	開催場所
第 110 回研究会 2014 年 4 月 16 日	見学：埼玉県大久保浄水場 排水処理施設 講演：排水処理場 P F I 事業の取り組み 講師：埼玉県浄水場 機械施設部 山本部長他	埼玉県 さいたま市
第 111 回研究会 2014 年 5 月 16 日	講演：グローバルな公共事業の担い手として、新たな事業領域へ チャレンジ～メンテナンスを含む電力・水事業の海外事例～ 講師：丸紅(株) 海外電力プロジェクト第一部 EPC 事業投資チーム 長(兼)海外電力プロジェクト第七チーム長 上出 衛輔 氏	JATES 会議室

第 112 回研究会 2014 年 6 月 3 日	見学：東日本旅客鉄道(株) 新幹線総合車両センター ・新幹線総合車両センター概況説明 ・工場見学(新幹線のオーバーホールと日常検査等)	宮城県宮城郡
第 113 回研究会 2014 年 7 月 17 日	見学：東京スーパーエコタウン事業施設の見学 (株)リーテム、バイオエナジー(株)、中央防波堤内埋立地及 処分場清掃関連施設	東京都大田区
第 114 回研究会 2014 年 8 月 21 日	講演：東京消防庁・・・災害救急情報センター 変貌する大都市東京の消防の現状と ICT 活用 ～災害救急情報センターの取り組みを中心に～ 講師：東京消防庁警防部総合指令室長 秋葉 洋一氏	東京都千代田区
第 115 回研究会 2014 年 9 月 29 日	見学：首都圏外郭放水路 世界最大級の地下河川 事業紹介、龍Q館展示、地下神殿：調圧水槽(地下)見	埼玉県春日部市
第 116 回研究会 2014 年 11 月 6 日	見学：IHI 瑞穂工場 ～ジェット航空エンジンのメンテナンス事業～	東京都西多摩郡瑞穂町
第 117 回研究会 2014 年 12 月 4 日	見学：柏の葉スマートシティプロジェクト 講演：三井不動産アーバンデザインセンター (UDCK) 副センター長 三牧浩也氏	千葉県柏市

2-4 技術競争戦略研究会

(1) 活動の概要

本研究会は下記のテーマで実施しています。

- ・変化する経営環境下でイノベーションにより、如何に柔軟対応しているか
- ・新しいビジネスモデル、ビジネス戦略を如何に展開しているか
- ・世界に通用する持続可能な実践的経営哲学を如何に確立しているか

第X期は、企業を取り巻く環境変化に柔軟に対応して、イノベーションを起こし、グローバル市場開拓を目指して経営刷新を図っている企業の経営者から「具体的取り組み・経営哲学」をお話し頂くことを中心に実施しました。

(2) 第X期技術競争戦略研究会

- ・テーマ：変化に対応したイノベーションを発信するオンリーワン企業に学ぶ
実践的経営学 - 経営トップの実体験に学ぶ経営哲学・経営手法-
- ・委員長：政策研究大学院大学 名誉教授 橋本 久義 氏
- ・参加企業：16 社

開催日	内 容	開催場所
第 1 回研究会 2014 年 4 月 17 日	基調講演：鉄道ビジネスのグローバル展開 ～英国市場への挑戦とビジネスモデルの変革～ 講師：(株)日立製作所交通システム社技監 鈴木 學 氏	ファイナンスアカ デミセミナールム
第 2 回研究会 2014 年 5 月 23 日	見学：日特エンジニアリング(株) 飯野事業所 講演：「製造業は創造業」をモットーに価値ある創造に挑戦 講師：日特エンジニアリング(株) 代表取締役社長 近藤 進茂 氏	福島県福島市
第 3 回研究会 2014 年 6 月 24 日	講演：世界最速の開発支援から生まれたいのちを救うプロ ジェクト～ドロッカーマネジメントを基に予期せ ぬ成功を追いかける経営戦略～ 講師：(株)クロスエフェクト 代表取締役社長 竹田 正俊 氏	JATES 会議室

第4回研究会 2014年7月23日 ～24日	見学：(株)日進製作所 本社工場 講演：「夢と創造」をモットーにハイクオリティで世界に挑戦 講師：(株)日進製作所 代表取締役会長 錦織 隆 氏	京都府京丹後市
第5回研究会 2014年8月29日	見学：福井鋳鑄(株) 加賀工場 講演：より良き品を創意と熱と人の和で ～グローバルカンパニー福井鋳鑄のBYORA イズム～ 講師：福井鋳鑄(株) 代表取締役社長 CEO 打本 幸雄 氏	石川県加賀市
第6回研究会 2014年9月19日	見学：岡本硝子(株) 本社・ガラス事業所 講演：町工場の世界制覇戦略 講師：岡本硝子(株) 代表取締役社長 岡本 毅 氏	千葉県柏市
第7回研究会 2014年10月17日	見学：未来工業(株) 本社・大垣工場 講演：常に考える。なぜ、なぜ、なぜの経営 講師：未来工業(株) 常務取締役 相崎 有平 氏	岐阜県安八郡
第8回研究会 2014年11月20日	見学：(株)浜野製作所 講演：産学官連携による新しい事業への進出 ～浜野プロジェクト～ 講師：(株)浜野製作所 代表取締役 浜野 慶一 氏	東京都墨田区
第9回研究会 2014年12月9日	講演：センシング技術で安全・安心・快適な社会づくりに貢献 講師：オプテックス(株) 代表取締役会長兼代表取締役社長 小林 徹 氏	JATES 会議室
第10回研究会 2015年1月22日	見学：(株)マスダック 講演：お菓子づくりを、もっと美味しく、新しく 講師：(株)マスダック 代表取締役社長 増田 文治 氏	埼玉県所沢市
第11回研究会 2015年2月20日	見学：(株)スギヤマ 講演：背の立つところで泳ぐ 講師：代表取締役会長 杉山 清 氏	静岡県富士市
第12回研究会 2015年3月19日	講演：2015年は3年遅れの昇竜年 頑張れ日本、頑張れ日本の中小企業 講師：技術競争戦略研究会委員長 政策研究大学院大学名誉教授 橋本 久義 氏	JATES 会議室

2-5 ICT 研究会

クラウドコンピューティングやスマートフォンの急速な普及など、ICT システムは益々重要になっています。今後の ICT 事業の成長を促進し、ICT 技術、ソリューションをリードしていく事の出来る、自律的な人材の育成を目的として、ICT に関わる企業の中堅幹部、エンジニアの方を対象に、平成 22 年度にスタートしましたが、平成 26 年度は、参加企業・研究会メンバーの増強を図り、活動を充実・強化して推進しました。 ・参加者：9 社、13 名

2-6 センサーネットワーク研究会

センサネットワークの最新動向についてサプライ側、ユーザー側、学界等、各領域の研究で活躍している方を講師として招きその領域での課題、研究要素、ビジネス化の課題等を認識・議論する研究会を月 1 回程度、開催しました。現在、30 社以上の企業が参加しています。

委員長：元ソニー(株) 執行役常務 渡辺 誠一 氏		
開催日	内容	開催場所
第 65 回研究会 2014 年 5 月 12 日	講演：MEMS と Trillion Sensors (カリフォルニア大学での 大規模実験結果を踏まえて考える) 講師：SK グローバルアドバイザーズ 代表取締役 神永 晋 氏	JATES 会議室

第 66 回 2014 年 6 月 25 日	講演 1：絆創膏型センサによるワイヤレス・ウェアラブルセンシング 講師：アフォードセンス(株)代表取締役 樋口 行平 氏 講演 2：無拘束高感度生体振動センサーの紹介 講師：リバーベル(株) 代表取締役 鐘ヶ江 正巳 氏	JATES 会議室
第 67 回 2014 年 8 月 20 日	講演：スマートコミュニティ 講師：慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科教授 西宏章 氏	JATES 会議室
第 68 回 2014 年 9 月 17 日	講演：世界最先端技術を駆使した地震予知法及び電磁環境技術の開発 講師：電気通信大学 名誉教授 早川 正士 氏	JATES 会議室
第 69 回 2014 年 10 月 16 日	講演：精密小型加振機と無線センサーネットワークを用いた構造センシング手法の開発 講師：東京理科大学 理工学部 土木工学科 准教授 佐伯 昌之 氏	JATES 会議室
第 70 回 2014 年 11 月 12 日	講演：ゲリラ豪雨を捉える X バンドマルチパラメーターレーダー 講師：(独)防災科学技術研究所 観測・予測研究領域水・土砂防災研究ユニット主任研究員前坂剛氏	JATES 会議室
第 71 回 2014 年 12 月 18 日	講演：動脈硬化検査指標の開発から市場立ち上げまで 講師：(株)志成データム 代表取締役 斎藤 之良 氏	JATES 会議室
第 72 回 2015 年 1 月 20 日	講演：農業分野におけるセンサネットワーク技術の利用と課題 講師：(独)農研機構・中央農業総合研究センター 情報利用研究領域 主任研究員 深津 時広 氏	ハロー会議室
第 73 回 2015 年 2 月 17 日	講演 1：EtherCAT の技術的特徴と採用のメリット 講師：EtherCAT Technology Group 日本オフィス 事務局長 小幡正規氏	JATES 会議室

2-7 アジアビジネス研究会

第Ⅱ期の研究会は下記のとおり実施しました。

委員長：日本電信電話(株) 顧問 宇治 則孝 氏

開催日	内容	開催場所
第 1 回 2014 年 4 月 23 日	講演：ASEAN・南西アジアのビジネス環境をどうみるか？ ～ビジネス上の課題(ビジネスリスク)を中心に～ 講師：JETRO 海外調査部アジア大洋州課 課長代理 小島英太郎 氏 講演：わが国製造業企業の海外事業展開に関する調査報告 講師：国際協力銀行 業務企画室 調査課 課長 阿由葉 真司 氏	ホテルグランドパレス
第 2 回 2014 年 5 月 23 日	講演：タイの経済概況と企業動向 講師：JETRO 海外調査部 アジア大洋州課課長 若松 勇 氏 講演：タイにおけるインフラ整備の現況・課題と JICA 事業の概要 講師：JICA 東南アジア・大洋州部 東南アジア第二課 調査役 松岡 源氏 講演：東南アジアでの鉄道の今後の展望と JR 東日本の事業展開 およびタイ案件の概要について 講師：JR 東日本 国際業務部担当部長 太田 朝道 氏	ホテルグランドパレス
第 3 回 2014 年 7 月 4 日	講演：ベトナムの経済概況とタイ・プラス・ワンのインパクト 講師：JETRO 海外調査部 アジア大洋州課 大久保 文博 氏 講演：ベトナムにおけるインフラ整備の現況・課題と JICA 事業の概要 講師：JICA 東南アジア・大洋州部 東南アジア第三課 課長 作道俊介 氏 講演：ベトナムにおける光アクセス網構築の概要と今後の展望 講師：NTT 東日本 IT イノベーション部 国際部 海外キャリア 担当 課長 長江 靖行 氏	ホテルグランドパレス

第4回 2014年9月11日	講演：インドネシアの投資環境と企業動向 講師：JETRO 海外調査部アジア大洋州課課長代理 塚田 学 氏 講演：インドネシアにおけるインフラ整備の現況・ 課題と JICA 事業の概要 講師：JICA 東南アジア・大洋州部 東南アジア第一課 課長 下川 貴生 氏 講演：インドネシアにおける電力事情と JBIC の取り組み 講師：JBIC インフラ・環境ファイナンス部門 調査役 阿部 亮一 氏	ホテルグラ ンドパレス
第5回 2014年10月16日	講演：マレーシアの投資環境と企業動向 講師：JETRO 海外調査部アジア大洋州課 課長代理 手島 恵美 氏 講演：マレーシアにおけるインフラ整備の現況・課題と JICA 事業の概要 講師：JICA 東南アジア・大洋州部 東南アジア第2課 課長 斉藤 克義 氏 講演：マレーシアへの ICT 分野での進出例と可能性 講師：MdeC 日本事務所 日本代表 杉山 尋美 氏	ホテルグラ ンドパレス
第6回 2014年11月2日 ～7日	【特別プログラム】 インドネシアおよびマレーシア2国の政府機関並びに日系企業訪 問と意見交換会 訪問先：NTT MSC、MdeC、DHL APIS、富士通マレーシア、住友電工マレーシ ア、NTT データインドネシア、三菱電機インドネシア、BKPM、JJC、JETRO ジ ャカルタ事務所 以上10カ所	
第7回 2014年12月5日	講演：インドにおけるインフラビジネスへの日本信号の取組み 講師：日本信号(株) 国際事業部 執行役員 事業部長 大島 秀夫 氏 講演：インドの投資環境と企業動向 講師：JETRO 海外調査部 アジア大洋州課 古屋 礼子 氏 講演：インドにおけるインフラ整備の現況・課題と JICA 事業の概要 講師：JICA 南アジア部 次長 松本 勝男 氏	日本ファイトンジャ ルアカデミー会議 室

◇特別プログラム 参加者：総勢21名（現地参加者4名、委員長、事務局2名含む）

訪問国	訪問日	訪問先 ・ 現地対応者
マレーシア	11月3日 (月)	●NTT MSC SDN. BHD. 出口 健氏 (CEO) ●MDeC (Multimedia Development Corporation Sdn. Bhd.) MdeC 日本事務所 日本代表 杉山 尋美氏 ●DHL Asia Pacific Information Services (APIS) Ong Yeang Kwang, Barry, First Choice Advisor ●富士通(株)マレーシア 請川 勘次氏 (Executive Director)
	11月4日 (火)	●住友電工ウインテック(株)マレーシア 森 正哉氏 (Managing Director) / 泉上 健氏 (Director)
インドネ シア	11月5日 (水)	●NTT データインドネシア 大谷 明氏 (CEO) / 川原 淳二氏 (Director) ●ジャカルタ日本クラブ (JJC: The Jakarta Japan Club) 事務局長 吉田 晋氏
	11月6日 (木)	●インドネシア投資調整庁 (BKPM) BKPM Japan Desk JICA 投資促進政策アドバイザー 山崎典夫 氏 ●ジャカルタ日本クラブ 事務局長 吉田 晋 氏 ●ジェトロジャカルタ事務所 経済連携促進アドバイザー 鎌田慶昭 氏

2-8 FF会

当会が、企画・運営の支援を行っているFF会については、原則として毎月第4金曜日に開催し、科学技術等に係わる諸問題についての卓話とそれに基づく議論を行っていますが、平成26年度は「TOCOG 2020年で日本がなすべきこと」をテーマに掲げて、例会9回、見学会1回、研修会2回を実施しました。

3 普及啓発事業

3-1 月刊機関誌「技術と経済」の発行

科学技術と経済の会の各研究会の活動成果を広く普及啓発するために、各研究会の講演録を主体とする構成とし、さらにMOT学会の査読論文や(独)科学技術振興機構の投稿論文等も加え、掲載記事の一層の内容の充実をはかりました。(特集テーマについてはWebサイトに掲載)発行号数は、平成26年度末で577号となりました。

3-2 「技術経営・イノベーション賞」の表彰実施

平成26年度の「技術経営・イノベーション賞」は、優れたイノベーション案件の幅広い発掘を重点にするとともに、新たに協賛機関として(一財)新技術振興渡辺記念会の参加を得て実施しました。

(1) 第三回表彰式 平成27年2月17日 ホテルグランドパレス

- ①主催者挨拶：(一社)科学技術と経済の会会長 野間口 有
- ②来賓挨拶：文部科学省 科学技術・学術政策局長 川上 伸昭 氏
経済産業省 大臣官房審議官 安永 裕幸 氏

③受賞テーマと受賞者

表 彰	テーマ	受賞者
文部科学大臣賞	世界 No. 1 精度の顔認証技術で安心・安全な社会の実現に貢献	日本電気(株)
経済産業大臣賞	ビジネスジェット機 HondaJet の開発	ホンダエアフラ(株)
科学技術と経済の会会長賞	少量採血でのアミノ酸測定によるがんリスク検査の事業化	味の素(株)
科学技術と経済の会会長賞	ロングテールの飲食店市場の生産性向上に貢献する独自インフラの構築	(株)ぐるなび
科学技術と経済の会会長賞	安全計装システム ProSafe-RS の事業化	横河電機(株)
科学技術と経済の会会長賞	科学合成人工抗体バイオ技術の海外スピンオフベンチャー設立による事業化	Apta Biosciences Pte. Ltd. (株)富士通研究所

3-3 ホームページの活用

会員や世の中との情報共有に向けて、主なイベント情報、研究会情報等の迅速かつ充実した内容の掲載を行い、情報発信力の強化を図りました。

3-4 名古屋支部の活動

当会が広くお役にたてるよう、支部活動を通じた会員相互の緊密な連携を図るため、談話会(10回)及び講演会ならびに企業見学会(2回)等の活動を実施しました。

4 国際活動事業

米国 IRI (Industrial Research Institute, Inc.)、欧州 EIRMA (European Industrial Research Management Association)、中国科学技術協会(CAST)、韓国産業技術振興協会(KOITA)等の科学技術振興を目指す海外の民間団体等と交流を続けるとともに、「科学技術と経済の会」の各種研究活動を紹介するなどの情報交流を続けました。

平成26年度は上記に加え、アジアビジネス研究会の活動の一環として、マレーシア・インドネシアを訪問し、マレーシアについてはスーパーコリドーの活動状況を中心に、進出している日本

企業等と、また、インドネシアについては、産業政策の一環とした工業団地視察や、団地内に進出している日本企業、JICA海外事務所との交流を推進しました。

なお、ローマクラブ日本委員会は平成26年度は開催されませんでした。引き続き状況把握に努めました。

5 受託・助成事業

5-1 「新エネルギー基本計画の産業界へのインパクトに関する調査研究」(受託研究) —エネルギー・イノベーション・エコシステムを踏まえた現状と展望—

- (1) 調査研究委託機関：(一財) 新技術振興渡辺記念会
- (2) 期 間：平成26年3月28日～平成27年3月31日
- (3) 調査研究の概要：

大震災後初となるエネルギー基本計画の案が発表されて、ここでは、福島原発の処理に大きなウェイトが置かれているほか、以下の特徴がある。

- ・(背景として)CO₂削減25%(1990年)目標の見直し
- ・電力システムの改革
- ・シェールガス等海外での資源技術革新成果の取り入れ
- ・再生可能エネルギー、蓄電技術、水素システム、化石燃料型発電の効率化等での最新技術開発取り入れ

エネルギー基本計画を基に産業界への影響、産業界による貢献等について具体的に調査を行いました。

5-2 「成長戦略：健康市場発展のための科学データの役割と個人行動変容に関する調査研究」 (研究助成)

- (1) 助成機関：(一財) 新技術振興渡辺記念会
- (2) 期 間：平成26年4月～平成26年10月
- (3) 調査研究の概要：

「健康」は政府成長戦略4重点市場の一つで、現在医薬品販売やサプリ等の規制緩和が主対象である。健康市場の健全な発展には運動等による人の生命力の活性化や個人における「行動変容」を促すことが重要であるので、その推進施策について調査し、報告書としてまとめました。

5-3 「産業におけるビッグデータ活用の現状と課題に関する調査研究」(研究助成)

- (1) 助成機関：(一財) 新技術振興渡辺記念会
- (2) 期 間：平成26年10月～平成27年3月
- (3) 調査研究の概要：

産業活動の中から収集・蓄積されるデータは飛躍的に増えている。この状況の中、多くの多様なデータを組み合わせて新たな価値を創造するビッグデータ活用ビジネスが期待されているので、産業におけるビッグデータ活用の現状について調査研究を行いました。

5-4 事務局受託業務

- (1) 委託機関：(一社) 技術同友会
- (2) 契 約 日：平成26年4月～平成27年3月
- (3) 業務概要：例会・幹事会・委員会運営、助成事業、技術経営士認定制度関連事務等

6 永年表彰

永年会員表彰：特別会員 1社、個人会員 14名

7 会の動き

7-1 会員数

名誉会員は佐々木元、武安義光、豊田章一郎の3氏であり、平成26年度末における個人会員、特別会員の状況は下表のとおりとなりました。

区 分	平成25年度末	平成26年度末	平成26年度		増 減
			入会	退会	
個人会員	513	469	13	57	△44
特別会員	95	91	3	7	△4

7-2 事務局

平成27年3月31日現在の職員は15名で、内訳は、技術経営会議3名、明日の経営を考える会1名、調査研究部2名、事業部3名、編集部1名、技術同友会事務局2名、総括部3名で構成しています。この中7名は出向者です。

7-3 諸会議

開催日	内容	開催場所
第150回理事会 2014年4月24日	・平成25年度事業報告・決算報告(案)について ・平成25年度公益目的支出計画実施報告(案)について ・理事の選任(案)について	ホテルグラ ンドパレス
第48回通常総会 2014年5月31日	・平成25年度事業報告・決算報告(案)について ・平成25年度公益目的支出計画実施報告について ・理事の選任(案)について	
第151回理事会 2014年10月29日	・平成26年度上期事業報告について ・公益目的支出計画実施報告書等の提出について ・第3回技術経営・イノベーション賞の実施状況について ・参与の委嘱について ・平成26年度上期代表理事・業務執行理事業務報告について	
第152回理事会 2015年3月17日	・平成27年度事業計画・収支予算(案)について ・第3回「技術経営・イノベーション賞」表彰の実施について ・政策提言の実施状況について ・次期総会における永年会員感謝状贈呈者について ・平成26年度下期代表理事、業務執行理事業務報告について	

【事業報告の附属明細書】

平成26年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので、これを作成しない。